江戸は何故江戸なのか？　地名に込めた家康の信念

私は今、コレド日本橋の下に立ち、巨大な建物を見上げている。
私が上京した当時は此所には東急デパートがあり、その前は白木屋というデパートだったそうだ。
このコレドという名前は、Core of Edo　すなわち江戸の中心という事から名付けられたと聞いた事がある。
現在の東京が昔江戸と呼ばれていた事を知らない人は無いであろう。
それでは、何故江戸は江戸という地名なのか？
過去に江戸検定の合格者に聞いた事がある。
「え～昔この地に江戸氏と呼ばれる一族が居て・・」、
ハイハイ、私の期待した答えは返って来なかった。この地の支配者となった徳川家康は何故江戸と云う地名をそのまま留めたのか？
江戸は穢土（汚れた地）と同じ音である。これは、単なる駄洒落の問題では無い。
言霊の国日本ではこの音が同じと云う事は重要な意味を持つ。この辺の所は井沢元彦先生の著作を読んで貰えば、ご理解頂けると思う。
家康自身、若い頃一向一揆に悩まされ、自分の配下も一揆側に回られ大変苦労した経験がある。
この時一揆衆は「厭離穢土欣求浄土（おんりえどごんぐじょうど＝穢れたこの世を厭い欣（よろこ）んで平和な極楽浄土を願う)」と唱えて、死を恐れる事無く攻め寄せてきた。
恐らく、家康は一揆平定後も'えど'という言葉を聞く度に、この時の恐怖体験、苦い経験がフラッシュバックして来たのでは無いだろうか。

戦国時代、支配者は自由にその土地の地名を変える事が出来るネーミングライツを持っていた。
織田信長は井ノ口を岐阜と改名し、豊臣秀吉(当時は羽柴秀吉)は今浜を長浜と改名し、明智光秀は横山を福知山と改名し、黒田長政は博多を福岡と改名している（この事は博多の地名を愛する町人と進駐軍である武士階級との間に長期に渡り軋轢を生む事になるが・・)。
家康自身、曳馬と云う地名を浜松と改めている。
従って土地の支配者は、自由に土地の名前を変える事が出来、'えど'と云う験の悪い名前を改めて、幾らでも縁起の良い名前に変えられた筈で在る。
従って家康は敢えて江戸（＝穢土）と云う地名を改変しなかったのではないか？

関ヶ原の合戦での勝利と豊臣氏の滅亡後、家康は自分の支配を盤石とするため、徹底的に対抗となり得る勢力の削減に努めた。そして、唯一徳川政権に干渉し得るのは京都の朝廷だけで在った。

日本に於いて穢れを最も嫌うのは天皇家で在り、家康は敢えて江戸と云う地に日本を支配する組織を構築する事により、朝廷の干渉を免れようとしたのでは無いか？
天皇を浄土の支配者として置き、自分は穢土＝現実世界の支配者に収まろうとしたのではないか？

現在の様な通信手段が無い当時は、人間が書状を持って運ぶのが唯一の通信手段で在った。使者を馬に乗せて連絡手段とするのであるが、馬は自動車並みの速度は出せるが長距離を走れない。そこで、江戸を中心として五街道を整備し、要所要所に通信士が乗り換えるための馬を配置した。
この五街道の内でも最も重要なのが、江戸と京都を結ぶ東海道であった。
現在の国道１号線は概ねこの東海道にそって作られているが、京都に入る手前で大きく異なっている。国道１号線では京都の五条大橋につながっているが、旧東海道では、京都の手前で急に北行し、西行してから三条大橋が終点となっている。
そして、この三条大橋とは、とんでも無い所なのだ！
江戸時代三条大橋の河原には処刑場があり、豊臣秀次とその家族、石田三成から近藤勇まで数々の歴史上の人物が処刑され首を晒されていた場所であり、名も無き罪人達の処刑も常時行われていた事であろう。
従って三条大橋の河原は京都では最も穢れた場所と言える。
既に述べたように朝廷は最も穢れを嫌う。徳川政権に干渉したくて江戸に向かおうとしてもゴールの江戸も穢れた地名で在り、スタートラインも立つ気にならない程の穢れた場所に設定して置けば、朝廷勢力を京都の地に封じておく事が出来る。

家康は幕府成立後、敵対勢力は必ず西から来る。そして、その時、敵対勢力は天皇を担いでくると正確に予想していた。
そのため、朝廷に対しては言霊の力で封じ、江戸に向かう軍勢には東海道に仕掛けを作る事により対抗しようとしていた。この東海道の仕掛けについてはココで書くのは本題から逸れるので、別の機会に述べたい。

現在、皇居は江戸城の跡に作られ、天皇陛下の住居となっているが、この御幸の前に、江戸と云う穢れた地名を改め、東京＝東の京都と改名する必要があった。
江戸が東京となって初めて遷都が可能となったのだ。